

■ 画像診断報告書の既読管理って何ですか？

京大病院では年間約7万件のCT、MRI、PETの検査を行っています。これらの検査は、専門的な判断が必要な場合、主治医以外に、画像診断を専門とする医師（放射線診断科）が診断する場合があります。放射線診断科の医師は、画像診断報告書を作成し、診断結果を主治医に返信しますが、ごくまれに報告書の返信に気づかず、内容が確認されないままの状態になっている場合があります。

特に、主治医が予期せぬ病気が見つかった場合（例：肺の検査目的でCTを撮った際に、肝臓がんが見つかる）、報告書を読まなければ、そのまま放置されてしまう危険性があります。

当院では、2018年6月より、報告書が確認なされたかどうかを電子的に管理し、画像診断報告書の確認漏れを無くす取り組みを行っています。

Q:なぜ画像診断報告書の確認漏れが発生するの???

A:主な原因の一つに、画像診断報告書が完成する前に、診察を終了することが挙げられます。

①診察当日に
画像検査



②画像診断報告書の
作成前に診察



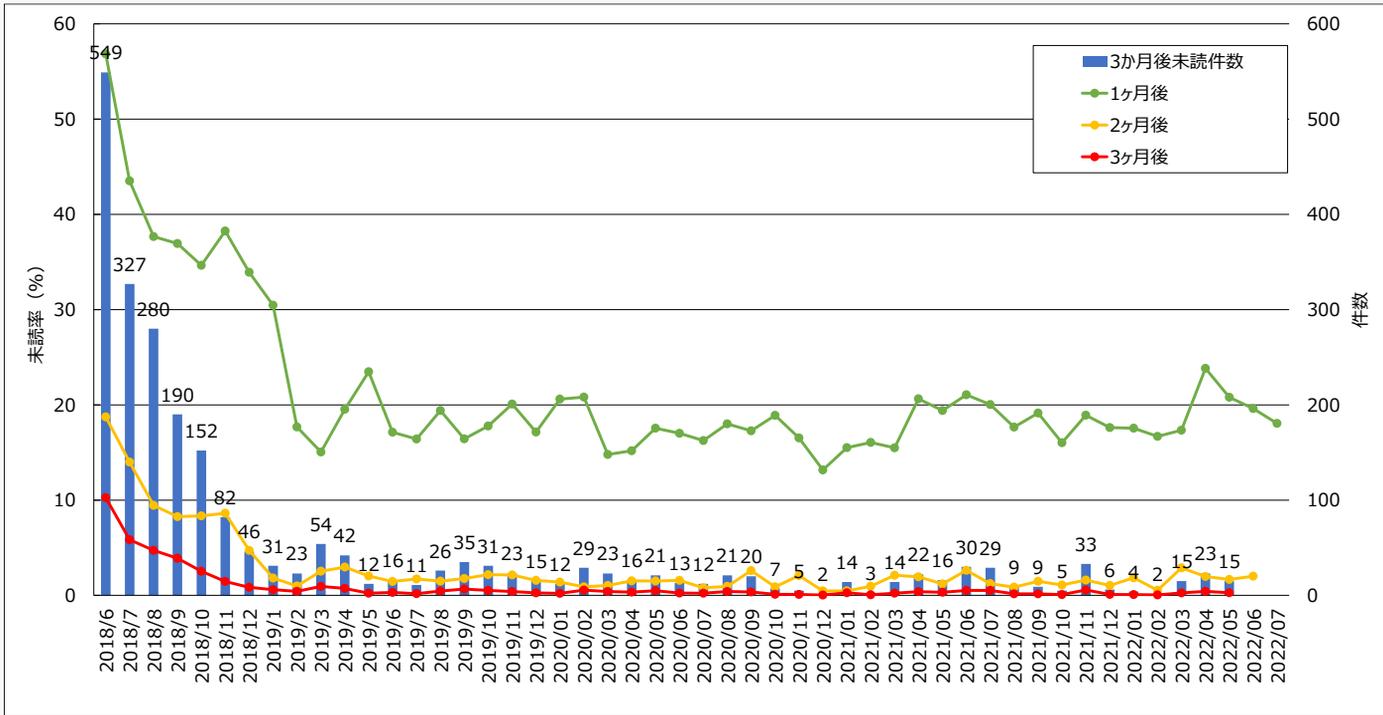
③放射線診断科医師
による画像診断報告
書の作成



④診察を終え、帰宅



放射線画像検査報告書未読率の推移



※システム上、正確に1,2,3ヶ月後の未読率を出すことは難いため、検査日の翌月を1か月後として、集計している。

例：2020年1月31日の検査が、2月1日の時点で未読であった場合、1か月後未読として集計する。

■ 主な取り組み

- ・電子カルテの改修（2018年6月）
画像診断報告書の確認の有無を電子的に管理できるようにした。
- ・医療安全ニュースの作成（2018年6月）
上記電子カルテの改修職員に周知した。
(<https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~wwwrisk/news/jyohou103.pdf>)
- ・院内の会議での呼びかけ（2018年6月～）
病棟医長および外来医長が集まる会議で、各診療科の画像診断報告書の未読率の報告した。
- ・患者さんへの呼びかけ（2019年4月）
原則として画像検査と診断日は別になること、検査の結果は必ず説明を受けるよう患者さんに呼びかけた。
(次ページ参照)

■ 課題

- ・検査後、3か月以上経過しても未読の報告書が残っている場合があり、個別に連絡する等の対応を行っている。治療開始遅れが発生しないために、この件数がゼロになるよう取り組む必要がある。

■ ポスターによる患者さんへの呼びかけ

院内では、このようなポスターを掲示し、患者さんへ呼びかけを行っています。
本院を受診される方はご協力をお願いいたします。

画像検査結果(特にCT、MRI検査)に関するお願い

最近、画像診断報告書を医師が確認しなかったために、患者さんに検査結果を伝えず、治療が遅れた等の事例が全国で発生しています。本院ではこのような状況を重くとらえ、安全な医療提供のため画像検査の診断結果の報告に際し、患者の皆様には以下のご協力をお願いいたします。

1. 画像検査(CT、MRI、RI検査)の結果説明は、原則、検査日以降(2日後以降)に行います。

- ・放射線診断の専門医師による結果報告書作成に約2日必要となるための取扱いです。ご理解願います。
- ・緊急検査の場合、当日中に担当医が画像検査の結果を説明します。なお、患者さん(救急外来の受診患者を除く)には、後日、放射線診断医の作成した診断結果を説明します。

2. 画像検査の結果説明は、担当医から必ず説明を受けて下さい。

- ・正常であったこともお伝えします。次回受診時に必ず担当医から説明を受けて下さい。

医療安全上の対策によって患者の皆様にはご不便も生じますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

2019年4月
京都大学医学部附属病院